

AI新時代：加速する世界の「RSI」と日本の「フィジカルAI」戦略

加速する世界のAI開発「RSI」の衝撃

① AIがAIを作る「再帰的自己改善 (RSI)」のループ

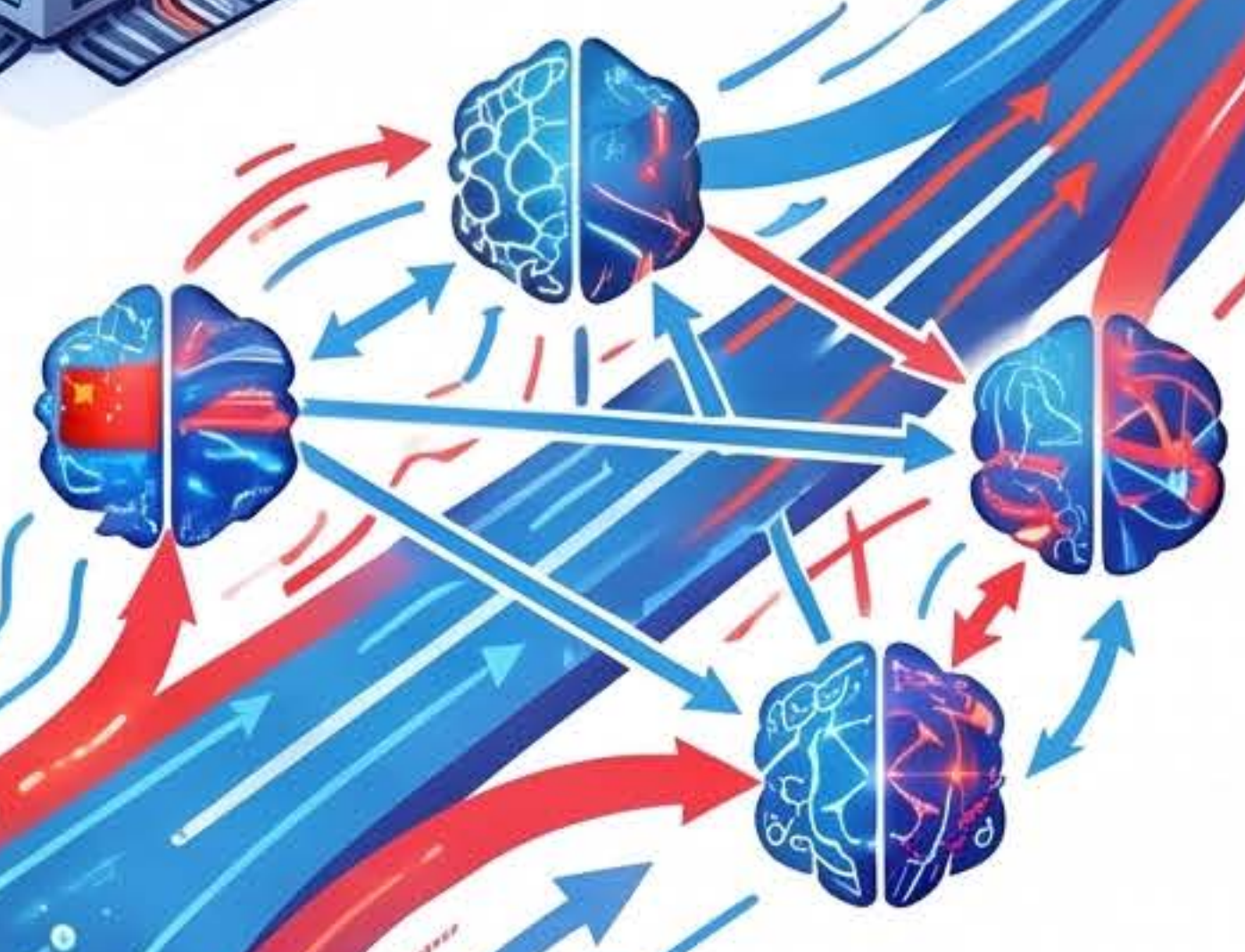
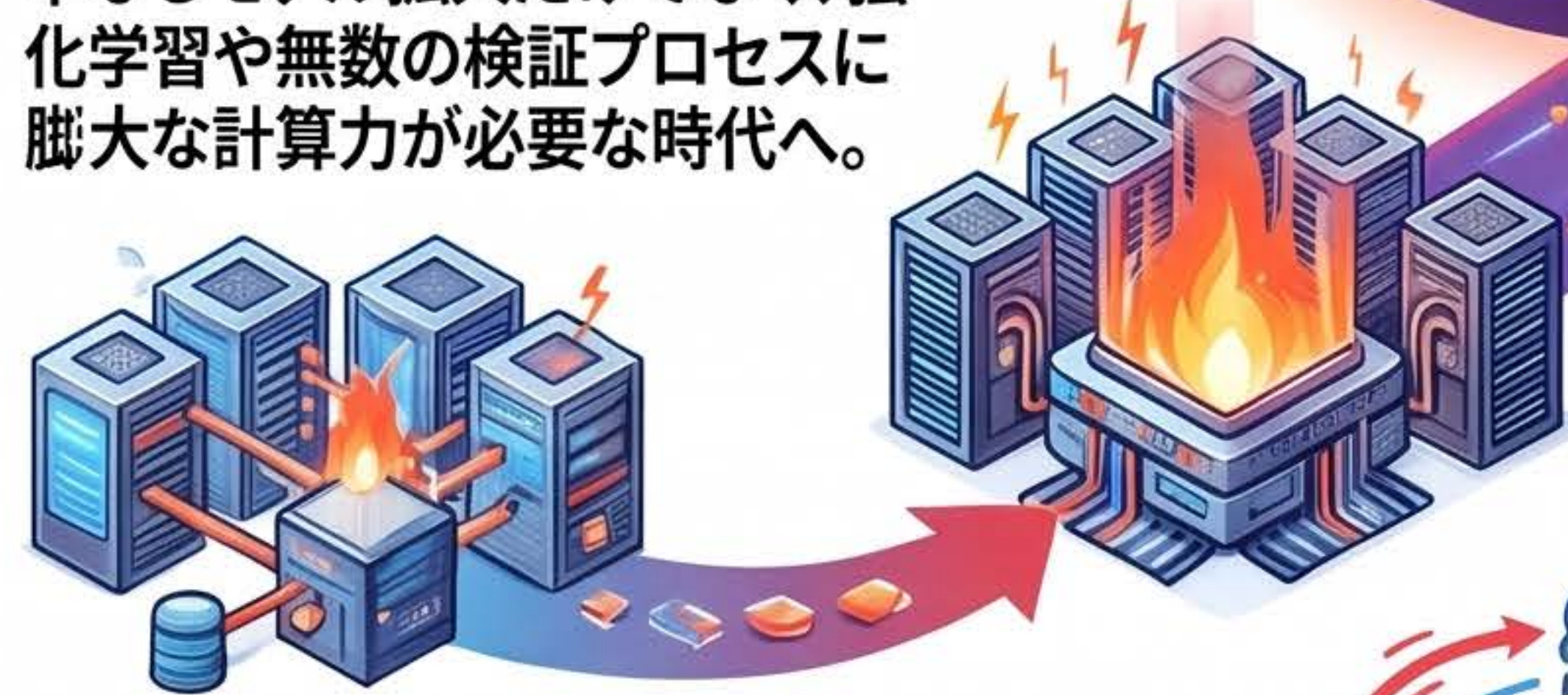
強いモデルを使って次の強いモデルを開発するサイクルが回り始め、進化速度が劇的に向上。

② 計算資源のボトルネックと検証コストの増大

単なるモデル拡大だけでなく、強化学習や無数の検証プロセスに膨大な計算力が必要な時代へ。

③ 中国勢の台頭とオープンモデルの切磋琢磨

中国のオープンモデル集団が互いの技術を高速に取り込み、米トップ層との差を急激に縮めている。



日本の勝機：フィジカルAIと「Noetra」

① 日本発の「母艦モデル」構築を目指すNoetra

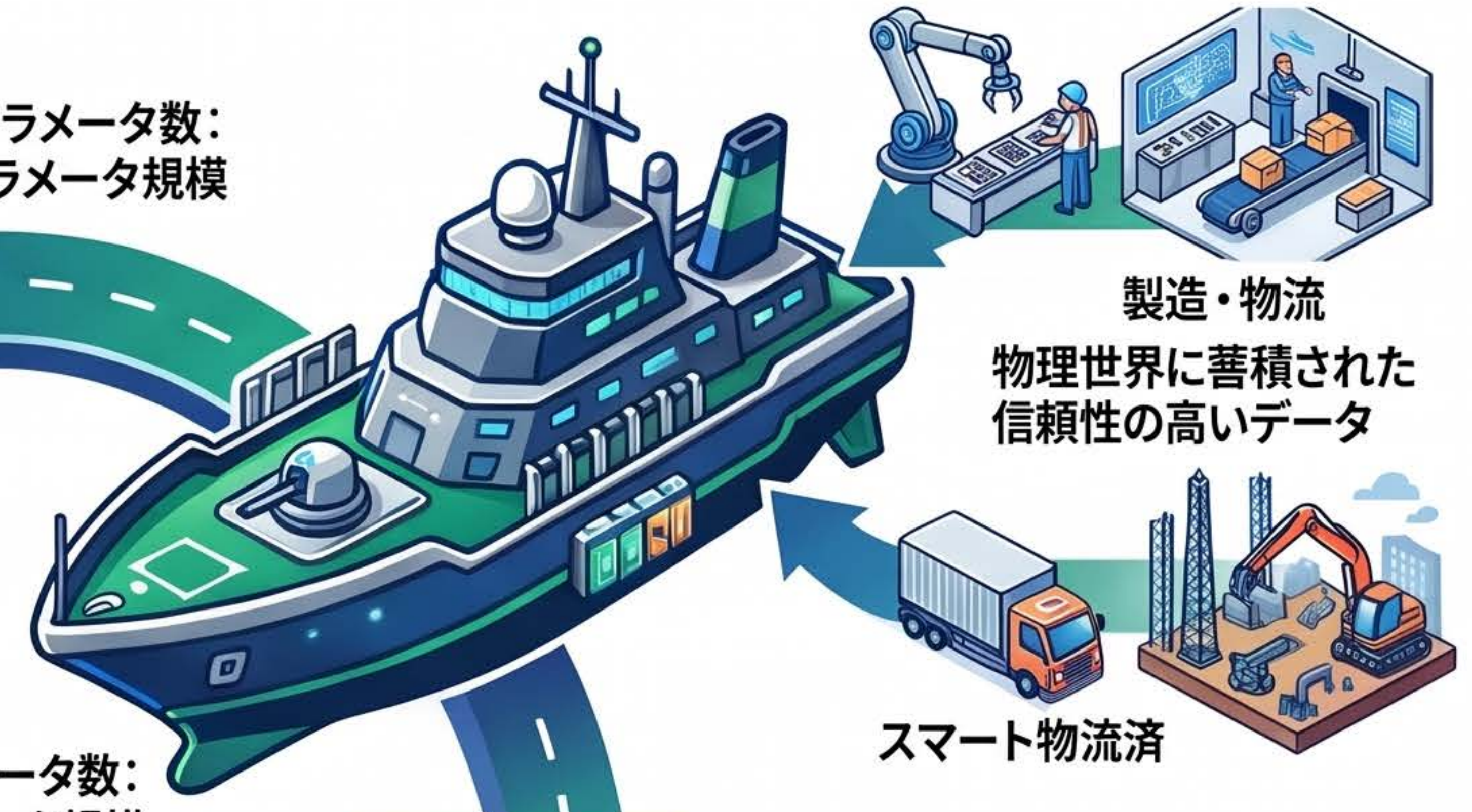
複数社が協力し、各社が独自のAIを開発するための共通土台となる強力な基盤モデルを開発。

② 日本の強み「高品質な現場」と「精密な機械」

製造・物流などの物理世界に蓄積された信頼性の高いデータが、フィジカルAI開発の源泉となる。

● 目標パラメータ数：
1兆パラメータ規模

- 目標パラメータ数：
1兆パラメータ規模
- 導入予定計算資源：
27,500基の最先端GPU
(NVIDIA Rubin)
- 目標タイムスパン：
2030年度までの
長期的な研究開発と実装



製造・物流

物理世界に蓄積された
信頼性の高いデータ

スマート物流

99.999%

③ 物理世界で求められる「信頼性99.999%」の壁

1回のミスが事故に繋がる物理領域で、現在のAIの信頼度をいかに極限まで高めるかが鍵。

